校長だより　～織部山つれづれ～

その６

春夏秋冬の「季節」がありながら、「季節が深まる」という表現はなぜか今の季節の専売特許のように思います。雲南も「山粧（よそお）う」季節になりました。

秋の半ば、３年生の大学受験に向かう生徒たちが、自分の意志で参加する「勉強合宿」を三瓶青少年交流の家で行いました。２泊３日で２４時間ただひたすらに黙々と勉学に励む合宿でしたが、三瓶に向かうバスの中で、「部活の時に、『苦しい時こそ笑顔で頑張ろう』を合言葉にしていた。だから、この合宿も、笑顔で乗り越えたい。」との宣言もあり、参加した生徒たちは、目標はそれぞれ違っていても、ともに学ぶ仲間としての絆を深めつつ、勉強に燃えた２泊日を過ごしました。

今の時期、本校は体育の時間に「ロードレース」を行っています。学校の前を流れる赤川をぐるりと回るコースですが、どの生徒もしっかりとした走りで、自分の力いっぱいにタイムの更新を目標に頑張っています。体育担当の教員が「怠けたり、ふざけたりする生徒は一人もいません。みんな本当に一生懸命です。」と感心するぐらいの走りっぷりです。

なすべきことを前にして、自分の中で、「何のために」がはっきりしている場合には、多少のしんどさがあっても乗り越えていくことができるはずです。でも、「何のために」が腑に落ちていなかったり、わからなかったりするときに、人は時につらいこと、苦しいことから「逃げる」ことを選択することがあります。

受験は自分のためだと言い聞かせてもつらくなることはある。ロードレースを走るのは、心身を鍛えるためだからといっても苦しいし、しんどい。しかし、しんどいことから逃げ出したいという人の情を超えて、踏みとどまらせ、そこに向かわせるものは何か。

それが、「仲間」であり「絆」というものではないかと、生徒たちを見て思います。

あの人が、頑張っているから、あの人には負けたくないから、あの人と一緒に頑張りたいから。そして、みんな一生懸命だから…。自分を奮い立たせる動機は様々だと思います。でも、人が支えられるのは人であることを今、この時期に感じている生徒は多いのではないか。そんな風に思っています。

年を重ねると、巡り巡って自分に返ってきたことに気づかされることが多くなります。そのたびに、「世の中に意味のないことはないのだなあ。」と思います。

今、しんどいと思っていることも、きっと人生の道程のどこかで、「あのことはこのことにつながっていたのだなあ」と思えるような時が来るはずです。

だから……　　がんばれ！！　大東高校生！！